



京都市学校歴史 博物館だより

VOL.
23

平成24年7月発行



正門、石堀は、国登録文化財

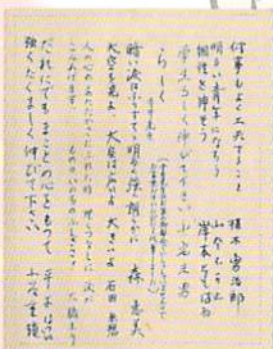
本館は、京都の学校に関する資料の保存・研究・展示を進める博物館です。

8月
28日
まで

企画展

人の心のあたたかさ、 理くつなしの涙 ～一教師・大橋まりの記憶と記録～

本展は、大橋まりという一教師にスポットをあて、戦後教育にのこされたさまざまな思いと情景を体感していただく企画展です。今回、あえて「有名人」ではなく一教師をとりあげたのは、日常的な教育の風景と、そこにはくぐまれた思いを大切にしたいからです。戦中戦後の激動期を生きた一教師の歩みをもとに、学校生活の中で生まれた<人の心のあたたかさ>を感じていただくと幸いです。



ガリ版刷の卒業文集、教師から生徒へ贈ることば(1952年度卒)



音楽の授業風景(1969年)

併設展

戦後の音楽教科書・疎開の記録



「おんがく3」(教育芸術社、1955年検定済)

併設展「戦後の音楽教科書」では、小中高の音楽教科書を展示し、その歩みを振り返ります。特に、終戦数年後から「第三次学習指導要領」が出される1950年代末までの自由度が高かった教科書に焦点をあて、教科書のもつ多様性・可能性に注目した展示になっています。

併設展「疎開の記録」では、児童たちが疎開先で描いた貴重な絵などをご覧いただけます。親から離れ、食べ物も少なく、幼い子どもたちにとって過酷だった学童集団疎開。彼らの心には、一体何が焼き付けられたのでしょうか。ぜひ皆様でその思いを感じとってください。



西田和子作、農作業手伝い(1945年)

お知らせ

担当学芸員による企画展・併設展の展示解説を行います。日時は、7月21日(土)・8月2日(木)・8月12日(日)の13:30～14:15で、事前の申込は不要です。

次回
企画展

京都市立学校所蔵作品展

学校で出会う 京都の日本画

期間 平成24年10月5日(金)～平成25年1月22日(火)

京都の市立学校が所蔵する絵画作品は、多くが創立記念や改築記念などで画家や地域の人たちによって学校へと寄贈されました。本展では、京都に伝わる日本画に焦点を当て、江戸時代のものから昭和に制作されたものまで幅広く展示いたします。学校という場所で、世代を超えてたくさんの人によって伝えられてきた豊かな作品の数々をぜひご覧ください。そして、京都の学校の歴史や、学校を飾った日本画の美しさ、それらを守り、伝える人たちの思いを感じていただければ幸いです。

※展示替があります



堀井香城(少女像) 嵯峨小学校蔵

学校団体見学 ～「学びの場」 としての博物館～

当館は、博物館としての展示のほかにも、京都における学校の歴史を主体的に学ぶことができるよう、さまざまなサポートをしています。今回は、平成24年5月に団体観覧をいただいた中から、京都女子大学と京都市立洛央小学校のみなさんの様子をご報告いたします。

京都女子大学

平成24年5月15日、京都女子大学の学生35名が、授業の一環として観覧にやってきました。

「机と椅子と黒板、なつかしい!」「小学校のにおいがする!」

みなさん嬉しそうに校舎や教室を見渡し、目を輝かせていました。

当館博物館主事が、京都の学校の歴史や地域・学区の人々の思いと活動などを解説した後、展示室を見学していただきました。学校給食の展示では、自分たちが食べた給食との違いに触れる中で「脱脂粉乳」の存在を初めて知ったという方もいて、昭和初期の教科書の展示では、小学生に戻ったかのような表情で見入っていました。また学校が所蔵する美術作品の素晴らしさには驚きの声が上がりました。昔の教具で学ぶ体験にも、貴重な発見があったようです。



不思議なもので、学校という所は、大人になった私たちが幼い子どもの頃に引き戻してくれるようです。当館の建物が昭和初期に建てられた元開智小学校の校舎であるという特色が、学びをスムーズにさせたようにも感じます。



京都市立洛央小学校

平成24年5月24日には、京都市立洛央小学校の3年生92名が見学に来てくれました。常設展示室では、「真空ポンプ」や「感応起電機」などの理科実験器具、給食メニューの変遷、「燭台付風琴(オルガン)」の展示を見ながら、自分たちが毎日当たり前だと思っていた学校生活と明治・大正・昭和の学校との違う点を実感していたようです。特に、昭和初期の教科書のほとんどがカタカナで書かれていたことには、驚きの声があがっていました。

開智教育資料室では、元開智小学校関連の資料をもとに、番組小学校の成り立ちから今日に至るまでのあらましを学習しました。驚いたことに子供たちは、部屋に入るなり、榎村正直二代京都府知事の手になる「開智」という小学校の扁額を自発的に声に出して読んでいました。本物の持つ力、年月を経た資料の重みを肌で感じたようです。実物にふれる学習を通して、番組小学校のことや、それが自分たちの洛央小学校にまでつながっていること、学校が世代を超えて守り育てられてきたことが実感できたようです。

昔の教材である「掛図」「石盤」の体験学習にも取り組みました。まず、「小学指教図」(明治12年発行)から文字を抜き出し、みんなで読んでみました。「たふ」って何?「ぼうし」?歴史的かな使いのため、ひらがなは読めても意味はさっぱりわかりません。困ったところで指教図を見せました。そこには文字の上に絵が描いてあります。なんだ、「ぼうし」は「ぼうし」、「たふ」は



「とう」のことなのか。書いたり消したりがたやすくできる石盤は面白いけれど、むかしの勉強って大変だったんだなあ。これが子どもたちの実感だったでしょう。博物館ならではの、貴重な体験型学習です。



所蔵品
紹介

《姜詩妻(きょうしさい)》 菊池(きくち)契月(けいげつ)

明治40(1907)年頃 元明倫小学校蔵



静かな木立のなか、きれいな女性が歩みを止めてふと後ろを見返ります。手には、水を入れるかめを持っています。川に水を汲みに来たのでしょうか。女性はほほえみ、幸せそうな、日常の穏やかな一場面です。

この女性は、いったいどのような人なのでしょうか？

実は、この絵にはもともとなったお話があります。

その昔、中国の後漢時代のお話。姜詩(きょうし)という、たいへん親孝行な人がいました。姜詩の母親はいつも「きれいな川の水が飲みたい、新鮮な魚が食べたい」と思っていました。そこで、姜詩と妻は、母親のために、家から遠く離れた川へ行って水を汲み、新鮮な魚をとっていました。すると、ある時、姜詩の家の隣に水が湧き出てきました。しかも、毎朝鯉がとれるようになったのです。この不思議なできごとは、姜詩夫婦の孝行を感じた、天の恵みだったのです。

このお話に出てくる、姜詩の妻というのが、ここに描かれた人物なのです。

この絵では、姜詩の妻が画面いっぱい大きく描かれることで、その立ち居ふるまいの美しさや、表情の穏やかさまでが丁寧に描き出されています。また、やわらかい筆づかいや穏やかな色づかいといった、画家の高い技術が、優しい雰囲気を出すことにも成功しています。

あたたかなまなざし、凛とした立ち姿、やわらかな表情。心の豊かな人間がもつ美しさを感じることができる作品ではないでしょうか。

(学芸員 森 光彦)

市民
学芸員の
声

心に響いたものは、強く残る

岸本 みどり



小学生の時、私は自分たちの学校の名前が中国の賢帝に拠るものと聞いて、子ども心に学校を誇らしげに感じましたが、その想いは今に至っています。

学校歴史博物館に活動の場を与えていただき6年、私が願うことは一人でも多くの方に来館していただき、来て、見て、感じてほしいということです。私は来館された方が市内の方であれば学校名をお伺いして、学校変遷図のパネルと各校の校歌を収めたファイルをご案内させていただきますが、皆さん大変喜んでくださいます。特に学校の歴史をさかのぼって行きますと、ほとんどの場合が明治初期に行きつき、年配の方若い方を問わず今さらながらにその歩みを感じ、懐かしそうに又誇らしげに話

される様子を伺っていますと、私まで嬉しくなります。京都に住んでいますと、自分たちの学校への愛情、また学区という地域の繋がりを非常に強く感じます。それは数々の統合で様子の変わってきた今日でも変わらず、様々な事柄が学区単位で進められていることから伺えます。私自身も当館での活動を通して、番組小学校の始まりを知り、明治の先人から今日に至るまでの京都の教育の歩みを通して、「次代を担う子ども達は地域で育む」という人々の姿勢を改めて感じる事ができました。

当館では学年に応じたプログラムも準備されています。授業の一環として沢山の子どもたちに来館してもらい、小さなことからいいので自分たちの学校に誇りをもつきっかけを見つけて帰ってもらえたら、また大人の方には自分たちにゆかりのある学区について改めて振り返るきっかけを見つけていただけたらと思います。

(市民学芸員とは、ボランティアで展示室での解説をして頂いている方々です。)

これから予定されている **企画展** **体験教室** **教室・講座**

企画展

2012年度
第2回
企画展

京都市立学校所蔵作品展
**学校で出会う
京都の日本画**



開催期間
平成24年10月 5日(金)
～平成25年 1月22日(火)

2012年度
第3回
企画展

学校歴博でまなぼう!
**ちょっとむかしの
教材・教具たち(仮)**



開催期間
平成25年2月2日(土)
～平成25年5月7日(火)

体験教室

内 容(小学生対象)	日 時	学 年	申 込
明治の小学校 書写教室	7月21日(土) 午前10時～12時	全学年共通	7月2日(月) 電話受付開始。 定員になり次第 受付終了。
博物館たんけんたい	7月22日(日) 午前10時～12時	1・2年クラスと 3～6年クラスにわかれます	
	7月22日(日) 午後2時～4時		
おもちゃの手作り教室	7月28日(土) 午後1時半～3時半	低学年・中学年・高学年クラスに わかれます	
	8月 4日(土) 午後1時半～3時半		
にほん画に挑戦! ※2回連続教室	7月29日(日) 午後1時半～3時半	全学年共通	
	8月 5日(日) 午後1時半～3時半		
親子で和風作りに挑戦!(仮) ※小学生とその保護者対象	12月23日(日) (時間未定)	全学年共通	未 定

昨年度の「明治の小学校
書写教室」の様子



昨年度の「むかしの学習を体験しよう」
(今年は「博物館たんけんたい」)の様子



教室・講座

内容(成人対象)	日 時
館長談話室	毎月第3火曜日 午後2時～3時 ※8月は休み/毎回募集
古文書教室	9月7日～9月21日の毎週金曜日(3回連続) 午前10時～11時半
唱歌・童謡教室	9月24日～10月29日の毎週月曜日(5回連続/10月8日は除く) 午後2時～4時

当館では他に、日本画教室(隔週)・合唱教室(毎週)・京繻教室(2月)を開催しています。



※日程など変更の可能性があります。

※申込方法など詳しくは、下記までお問い合わせいただくか、当館ホームページまたは「市民しんぶん」をご覧ください。

京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町仏光寺下ル橋町437 (元開智小学校)
TEL.075-344-1305 FAX.075-344-1327
URL <http://kyo-gakurehaku.jp>

- 入館料 / 大人200円 子ども(高校生以下)100円
(20名以上の団体 / 大人160円 子ども80円)
- ※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間 / 9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 / 水曜日(休日の場合は翌平日)
12月28日～1月4日



- 阪急電車「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 京阪電車「祇園四条」駅下車 南西へ歩10分
- 市バス「四条河原町」停下車 南西へ歩5分
- 市バス「河原町松原」停下車 北西へ歩3分